



# わかば

流山市立北部中学校  
平成31年1月18日  
生徒数 495名

## 『休眠打破』

校長 金子 邦晃

ここ数日寒波が到来しています。澄み渡る青空は気持ち良いのですが、朝晩の冷え込みは、すべてのものに降り注いで、柔らかさを奪い固く締め付けているようです。

気持ちと身体まで冷え込ませてほしくないものですが、北部中では年末から年が明けても、インフルエンザの猛威にもさらされています。年末は2年生、年明けは1年生を中心に感染が拡大しています。まだ終息はしておらず感染拡大や防止への警戒は引き続き必要です。そんな中で3年生には感染が拡大していません。さすがだなあと感心していますが、受験期まっただ中において毎日出願や入試、発表が行われています。今後も油断はできません。

すでに15名が進路先を決定しています。公立高校の出願は来月から始まり、学力検査の日程は二次募集等を含めると3月まで続きます。これから試験に臨む人は大勢います。残された時間は一秒たりとも無駄にできない貴重な時間になるでしょう。すでに合格を決めた人も進路開拓を“共に乗り切る”気持ちで生活してほしいと願っています。桜咲く春は、この受験を乗り越えたあとに必ずやってきます。

春を告げる桜は、夏から秋にかけて気温の高いうちに花芽をつくり、その後冬が始まる頃には休眠に入り生長を一旦止め、さらに気温が下がり真冬になると、厳しい寒さが目覚ましとなりその後は気温の上昇とともに生長し、つぼみがふくらんで花が咲きます。桜は一定期間低温にさらされた後にあたたかくなると、花が咲かない性質があるわけです。これが表題の『休眠打破』です。桜は寒さの中でこそ咲こうとするスイッチや力が生まれるということでしょう。人も同じだと思います。苦しく堪え忍ぶ時を冬に例えれば、その時がなければたくましく強くしなやかに生きる力を育めないものなのでしょう。寒いからできなくなるのではなく、寒いからこそ鍛えることがある。この時期だからこそ力をつけ、伸ばす技能や学びがあることを強く意識して生活していきたいものです。

3学期はとても短い学期です。そしてやらなければならないことが短期間に詰まっている学期です。3年生は進路開拓の詰め、そして卒業に向けて。1・2年生は学校の活動主体を3年生から引き継いで、新入生を迎えるにふさわしい上級生としてのふるまいや活動力を身につけていかななくてはなりません。学習面ではそれぞれの学年のまとめが必要になります。行事では3月に入ると3年生を送る会や卒業式に向けた取り組みがあります。あっという間の時間ですが「休眠打破」そして確かな流北中生としての実力をつけてほしいものです。